



渚滑っ子

学校HPコード



教育目標：人間性豊かな児童の育成

～気付きをつなげる子どもの育成～

令和7年10月27日発行

文責：校長 木村 智史

大切にしたいこれからの学び～AI と人間の能力

次の写真をご覧ください。



渚滑中学校です。でも、何か違います。そう、これは、生成AI を使って人工加工した写真です。

いくつかの「プロンプト（完成イメージの言葉、指示）」を打ち込むと、数秒で完成します。実際の写真はこちら。



令和9年度に、義務教育学校として開校することになり、校舎の活用について教育委員会と協議していますが、私が勝手に、「校舎3階建て、玄関前に遊具で遊ぶ子供たち、芝生」と

いうキーワードを打ち込んで生成してみると、あたかも現実に存在しそうな校舎が完成します。

他にも、「未来の授業像」というプロンプトを打ち込むとこんな写真になります。



基の写真は、本校の低学年が担任と授業している写真でしたが、よく見ると担任は消え、ロボットがデジタル黒板なるものを使って授業している場面になっています。

「エスカレーターで移動する子供たち」と入力すると、見慣れた渚滑小の階段もこの通り。



生成AI は、安く正確に大量処理する手段だとしたとき、人間にしかできないことは「問いと判断」です。「何を作るべきか。」「美しいか。」といった最終的な判断、責任をとることはAIにはできません。

昨今のAI の進歩はすさまじく、今後、十年を待たずに、現在の世界と様変わりすることが予想されています。教育界で一般化しつつある言葉、「予測不能な世界」がまさに迫っているということです。

自己調整力の育成

そこで、人間にしかできない能力を鍛えるために、小学校では何が必要か？を考えたとき、「自己調整力の育成」があります。簡単に言うと、「目標を決め、その達成のためにあらゆる手立てを講じながら実現にせまる。」ということです。

この実現のために、渚滑小では、「気付きをつなげる子」という児童像を設定し、教育活動を進めています。自分の学び方、身に付けた能力を実感するという事です。もし、毎日の学習や活動が子にとって、「やらされている」と感じるものであったとき、それは、学びではなく「作業（言われたことをやる）」指示待ちとなります。当然、そこに自分の中で生み出される、問い（はてな？ どうして？）や決断が生まれることはなく、学びの連続は成り立ちません。

そこで本校では、子供たちの「はてな？」をもとに課題を設定し、友達と相談しながら解決の情報を収集し、まとめを子供たちがするように進めています。



私と本 ～ 〇〇〇さんに、おすすめの本を紹介しよう～

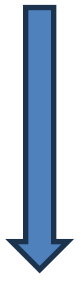
気付き	気付きを使う	つなげる力
読書が、自分の考えを広げていることに、気付く。	文章を読んで理解したことをもとに、自分の考えをまとめる。	今までの学習を生かして、前向きに取り組む。

① 〇〇〇さんに、紹介しよう。
② 学習を 〇〇〇う。

① 紹介文をかこう。
紹介すること：テーマ・題名・作者・あらすじ・紹介文

① 印象深い本について、どう考えを広げてきたかを ふり返る。
② 印象深い本を集めて、紹介するテーマと本を決めよう。

- はてな？
- 情報収集
- 分析
- まとめ
- 振り返り



学習の進め方を事前に確認したり、学習後の自分の姿（どんな能力を身に付けるべきか）

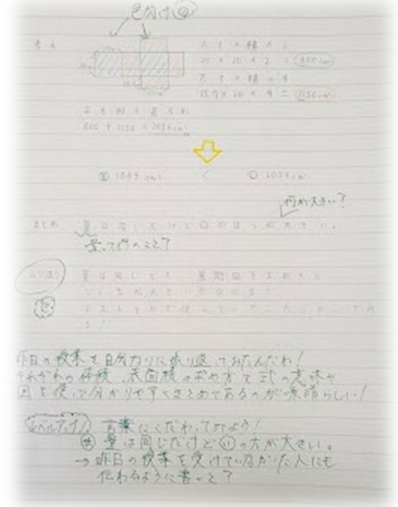
を子供たちと共有したりしていることも、「決断力」「はてな力」「実行力」を鍛えるために必要なことです。

こうした学び方を、家庭学習につなげている子も現れています。漢字を書く、計算をするだけが家庭学習ではありません。

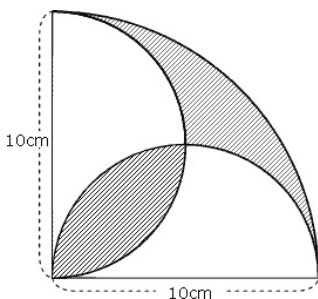


2年生のこの子は、お家でプリンを作ったそうです。その時、「むずかしい料理をおいそうにつくるためにレベルアップする」という、課題を設定しています。その課題を達成するために、プリンにのせるクリームの見せ方に着目したようです。

家庭学習ノートには、振り返りとして、「ママの作り方を見てみたい。」と感想を書いています。次にプリンを作るときの視点がはっきりとしたことでしょう。



高学年の児童は、算数の立体（角柱と円柱）について、「はてな？」をもったそうです。買い物に行ったとき、「商品の量はどちらが多いのか？」解決しなかったそうです。課題設定から、まとめ、振り返りまでの流れを自主的に進めていました。



先日、6年生に求積問題をを出題してみました。

ある子は、この問題を46秒で解きました。そして、「この問題を解くために必要な力とは？」と問いました。すると、「図形を移動させて計算を簡単にするという考え方」と答えています。学習を要約しています。確かに、この問題は、AIでも解決できます。

でも、小学校に必要な能力は、問題や課題に、自分はどのように取り組んだのか、その結果、どんな力を身に付けたのかを実感（振り返る）学習の積み重ねを続ける必要があると解釈しています。

「挨拶、返事は必要ない。」「将来、円周率なんて使わない。」そういって、学ばない理由を一般化して話す子や大人がいます。でも、円周率を使いこなすことが目的ではなく、「はてなを解決する」「挨拶・返事をする意義、本質は？」を考え、決断するところに、目的があることを忘れてはなりません。

生成AIとの共存を語る時、「手段と目的」の使い分け、「本質とは？」が鍵になるのではないのでしょうか。予測不能な世界と未来にわくわくしたいものです。